

西宮市議会議員 6期21年

田中まさたけ

正 剛 市政・市議会報告



ホームページもご覧ください。

<https://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



市政に対する無関心をもたらす結果

西宮市は今年、市制施行100周年の節目を迎えます。

しかし、市は、再び財政悪化を招き、次の100年に向けた投資すらままならない状況に陥っています。これは、唯一予算を編成・執行する権限をもつ市長が、議会の指摘を無視し、放漫財政を続けた結果です。私たち市民が納める税金は、市職員の厚遇や既得権益を守るためのものではありません。今こそ、「負の遺産」として財政難を後世に残さぬよう、聖域を排し、徹底した改革を進めるべきです。

- 学校給食
- 経済対策による財政改革
- ブラックボックス化する宮水保全条例の運用
- 部活動の廃止(地域移行)を見据えて
- 事故防止に貢献するアセットマネジメント

学校給食調理業務を民間に委託すれば、生産性の向上とサービスの向上が可能なのですが、市は動こうとしません。

行政
改革

■学校給食の無償化が議論される一方で…

市立小・中学校、義務教育学校、特別支援学校では、年間約20億円の食材購入費と約1億円の配送費(令和5年度決算)を保護者が給食費として負担しています。そのため、**西宮市で給食費を無償化するには、約21億円の財源確保が必要となります。**

この給食費には調理業務の経費は含まれませんが、**私はこれまで、財源確保の一環として給食調理業務の民間委託を提案してきました。**令和6年3月議会でも市の考えを問いましたが、市は調理員の非正規化を進める一方で、**柔軟性に欠ける直営体制を頑なに維持しようとしています。**

コロナ禍の夏休み短縮期間中、民間委託を導入した自治体では通常どおり給食が提供され、西宮市では調理業務を放棄し簡易給食の提供にとどまったことがありました。これは、民間委託の方が

年間の給食提供日数 (令和5年度)	小学校 186日 (約491万食) 中学校 180日 (約193万食) 義務教育学校188日、特別支援学校178日
調理員一人当たり人件費(共済年金含む)	
正規職員	880万7千 円 (63名平均)
非正規職員	375万4千 円 (250名平均)

柔軟に対応できることを示す一例です。また、学校給食は年間の半分程度しか提供されませんので、**民間委託を導入し土曜や長期休暇中に給食室を活用すれば、留守家庭児童育成センターでの給食提供も可能になる**と考えています。

一事が万事、**子供たちの利益より公務員の処遇を優先する「市の意識」を変えなければ、質や生産性の向上は望めません。**今後も、市民負担の軽減とサービス向上を実現するため、提案した政策の実現に向けて行動していきます。

宮水保全のため、安井小学校の改築事業に投じられた公金は約6500万円。その内容と効果について説明が不可欠。

行政
改革

● 条例に基づく取組みの内容と成果が不透明

「宮水」は西宮市南部の地下の浅い地層を流れる日本酒造りに欠かせない伏流水です。西宮市は平成30年4月に宮水保全条例を制定し、自然が生み出す宮水の保全に取り組んでいます。右図の定められたエリア内で一定規模の建設工事を行う場合、公共事業・民間開発事業を問わず、市長が会長を務める「宮水保存調査会」と協議をし、その内容を報告することが義務付けられています。しかし、その協議結果や対策の内容等は不透明になっています。そこで令和6年9月議会一般質問でこの問題を取り上げた結果、直近の安井小学校再整備工事では、地下水の水位や水質の観測に約500万円、対策工事に約6000万円の公金が使われていたことが判明しました。さらに、観測業務は1社が独占し、金額もほぼ言い値で決められていることも明らかになりました。

財政構造改善を理由に市民に負担を強いる一方で、こうした不透明な支出を放置することは許されません。私は、市のさまざまな条例運用や進捗管理の問題点を指摘し是正を求めました。また、経済対策の観点から、国の財政支援も求めるよう提案しました。



● 一般質問では、発がん性リスクが指摘されている有機フッ素化合物(PFAS)についても触れました。詳細はこちらをご覧ください。⇒



「部活動の地域移行」という名の公立中学校での部活動の廃止に備え、学校施設の環境整備と市の意識改革の必要性を指摘。

教育
環境

国が中学校の部活動を地域へ移行する方針を示し、子供の体力低下が課題となる中、「生きる力」に不可欠な「非認知能力」を育む機会として、子供たちが地域でスポーツや芸術・文化活動に一層取り組めるように環境整備を強化する必要があると考えています。そこで、令和6年9月議会一般質問において、以下の政策を提言しました。

- 学童期(小学生)の子供の体力向上に向けた地域スポーツの取組み・支援の強化
- 子供の情操教育に有効な「宮水ジュニア事業」の対象年齢の引き下げ(小学1年生から)
- 部活動の地域移行を見据えた市立中学校施設の

地域開放を促進するための環境整備

- 18歳未満の子供が参加する大会で使用する市立施設の優先利用と使用料の負担軽減
- 県立甲山高校閉校後の施設の有効活用に関する要望の検討

現在の西宮市の子育て環境は、国や社会情勢の変化に十分対応できているとは言えません。今後、「子育てするなら西宮」の実現に向けて行動してまいります。

「部活動の地域移行」に関する田中まさたけの政策提言はこちら⇒
をご覧ください！



	部活動(学校教育の一環として学校が実施)	プレミヤ(部活動地域移行後)
参加者	通学している生徒	学校や地域に関係なく生徒が希望するクラブを選択
活動場所	通学している学校	学校や体育館など公共施設、民間施設等
費用負担	用具や交通費などの実費	会費 + 用具や交通費などの実費

目先の収支改善を目的にした現在の「財政構造改善」の方針で、これからの社会情勢の変化に対応できるのか。

財政
改革



令和5年度の一般会計では、財政基金(いわゆる貯金)から41億円を取り崩して対応し、財政基金の残高は168億円に減少しました。貯

金を取り崩さなければ財政運営が成り立たない「赤字体質」に陥っている西宮市は、現在、「財政構造改善」に向けた取り組みを検討しています。しかし、**その方針は目先の財政収支の改善に重点を置いたものとなり、このままでは少子化などによる社会情勢の変化に対応できなくなる恐れがあります。**

特に、投資的経費の割合の低さは問題です。市内の公共施設の老朽化が進む一方で、令和5年度の投資的経費(施設の更新等に充てる費用)は全体のわずか6.7%(133億円)にとどまり、前年度から約18億円減少しました。さらに、経常収支比率は前年度より1.7ポイント悪化し、98.3%に達しました。これは、**財政の柔軟性を失い、課題を先送りしていることを示しています。**こうした状況から私は、

●**施設総量の縮減と老朽インフラの改築・更新を安定的に進めるための「投資的経費」の拡充、**

●**経常収支比率を改善し将来の社会情勢の変化に柔軟に対応できる財政構造への転換**



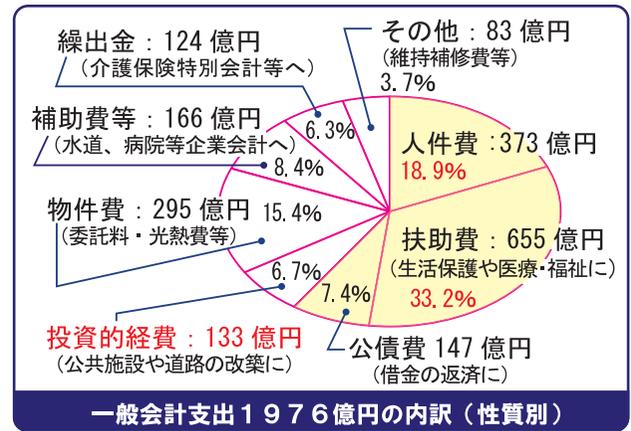
整備中の(仮称)越木岩センターのイメージ
建設費約12億円、**管理・運営を指定管理者(民間企業)に委託**、令和8年夏頃オープン予定。

が急務と考えています。そのためには、経常収支比率の悪化要因である人件費や扶助費(福祉的な給付)、公債費(借金の返済)を抑え、投資的経費や物件費へと計画的にシフトする必要があります。

私が初当選した当時、市は深刻な財政危機に直面していましたが、財政改革を強く訴えた結果、危機を乗り越えることができました。しかし、その後再び財政状況が悪化した要因としては、**産業振興や経済対策の効果が十分に表れず収入が増えなかった一方で、市職員を過剰に増やした**ことが挙げられます。さらに、身の丈に合わない過剰なバラマキを許した政治の責任も大きいと考えています。

そこで、令和6年3月議会の代表質問において、二度と同じ事態を招かないために、

●**財政規律を守る財政マネジメントの仕組みを構築**するよう提言しました。



また、これまでに、

●**職員と議員の人数削減による人件費の抑制**
●**民間委託や民営化、指定管理者制度の活用、DXの推進による生産性の向上**

●**政策目的を果たせていない事務・事業の廃止**を断行するよう提言してきました。今後はさらに、

●**「ふるさと納税」等の税収増加を目指した産業振興・経済対策の推進**

についても政策を提言し、西宮市の財政健全化と持続可能な成長を実現するため、行動してまいります。

大規模な道路陥没事故は、これまで重要性を主張してきた「アセットマネジメント」の取組みで防がなければなりません。

**安心
安全**

■インフラの維持管理の適正化をずっと主張

18年前、私は市議会で、市が管理する公共施設や道路、水道・下水道管などの老朽化を把握し、計画的に補修・更新することで安全性を維持するための財源を確保する「アセットマネジメント」の導入を提案しました。

その後、平成23年度に「公共施設白書」、平成28年度に「西宮市公共施設等総合管理計画」、平成29年度には「下水道ストックマネジメント計画」が策定され、着実に取組みが進められています。

■民間事業者との協働がますます重要に

現在、道路陥没の未然防止にもつながる下水道管の管理については、TVカメラなどによる点検と老朽管の修繕・更新によって安全を確認しています。しかし、**年間の更新率は管路全体の1%にも満たず、今後、更新が必要な老朽管が急増することが懸念されます。**実際に、市はこの課題に対応するため、**令和9年度以降の下水道料金の値上げを示唆**しています。さらに、

●工事を担う技術者や職人の不足

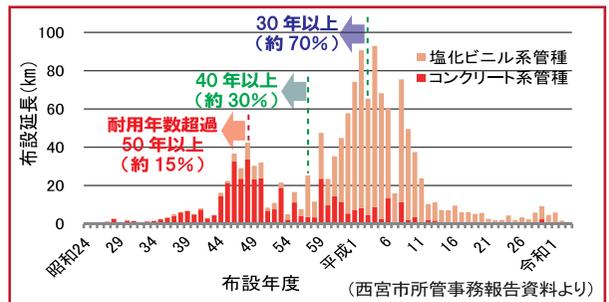
●工事単価の高騰

といった問題も深刻化しており、アセットマネジメントの強化は急務です。水道管の管理も同様です。

既存施設の適正な維持管理に加え、地震や豪雨などへの防災機能を高めるには、民間事業者との適切な協働も不可欠です。そのため、**工事を担う技術者や市内企業を育成するためにも、投資的経費の確保が急務**と考えています。

今後も、西宮市のインフラアセットマネジメントの実効性を検証し、市民の安全と利便性を守る政策の実現に向けて行動していきます。

○下水道管路の整備と老朽化の状況



この記事に対するご質問・ご意見は、nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

約束のかたち:「市政・市議会報告」の発行の継続、「市政報告会・意見交換会」の開催

このチラシは、単なる広報やPR誌ではなく、市民の声を伺うきっかけとなる広聴のためのチラシでもあり、選挙前だけではなく定期的に作成してきました。このチラシを見て、掲載内容以外のことも含めてご意見を寄せてもらっています。また、LINE公式アカウントでも、ご意見をいただいております。すぐには実現できない内容も多いですが、だからこそ、今すぐ着手しなければならないこともあります。諦めずにご意見や情報をお寄せ下さい。

発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

profile

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒
/元市会議員事務所に4年間勤務した後、平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(27歳)、現在6期目、49歳

■担当委員会:民生常任委員会 ■政党:自由民主党

■これまでに就任した市議会での主な役職

厚生常任委員会委員長、西宮市監査委員、病院問題特別委員会委員長、阪神水道企業団監査委員、西宮市議会副議長、建設常任委員会委員長、民生常任委員会委員長、第88代西宮市議会議長(41歳)

■73号: 結果を追い求める



大規模災害時の避難所を想定したスポーツ施設整備、子育て教育環境の向上、高齢化への対応、西宮市役所の人件費等について掲載。

LINE公式アカウントへのご登録は、⇒
こちらのQRコードをLINEアプリで読み
取って下さい。

LINE
公式アカウント

